

屋根の雪下ろしは危険がいっぱい!

安全な

雪下ろしガイド

屋根の雪下ろしは、一人での作業や
安全対策を怠ると、大きな事故につながります。



雪下ろし中の事故を防ぐポイントを
お教えします!!

山形県

安全・安心な冬の暮らしのため



屋根の雪のゆるみに注意!

- 暖かい日の午後は特に注意しましょう。
- 雪解け水や雪がうごく音に注意しましょう。



[ヘルメット]
あごひもを締めよう

[動きやすい服装]
厚着はダメ!

[安全帯]
幅広で
絞まらないもの

[防寒性ゴム手袋]

[命綱]
すべりにくく
ゆるみにくい

[ゴム長靴]
すべりにくい



安全な服装で!

- ヘルメットを正しく着用しましょう。
- 着ぶくれしないで動きやすい服装にしましょう。
- 厚底の長靴は避けましょう。
足裏の感触が大切です。
- すべりにくい防寒性のゴム手袋がお勧めです。



の雪下ろし作業 8つのポイント!

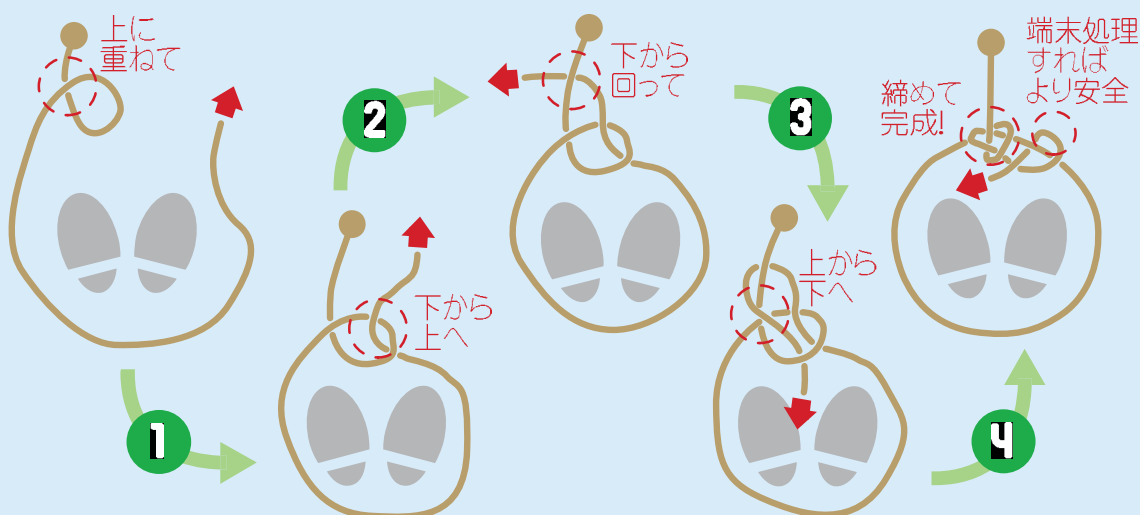
ポイント

3

命綱を 使いましょう!

- 転落防止のために命綱を使いましょう。
- 命綱にはザイルや麻ロープなどを使いましょう。トラロープはすべりやすいので、使わないようにしましょう。
- 命綱を固定するには、専用のアンカーを使う、反対側の家の柱に結ぶなど、状況に応じて工夫しましょう。
- 命綱を体に固定するには、安全帯など幅広いものを使いましょう。
- 命綱は正しく結びましょう。
- 命綱は屋根の上で止まる長さに調整しましょう。
- 命綱は正しく使用しないと、逆に危険です。

● もやい結び (命綱) の方法



安全・安心な冬の暮らしのため



はしごは しっかり固定！

- 転倒防止のため、はしごの足元をしっかり固め、上部をロープで固定しましょう。
- 長さは軒先より 60cm 以上高くしましょう。
- 屋根に対して真っ直ぐに、決められた角度でかけましょう。
- はしごの昇り降りは特に注意が必要です。

- 1 上から下へおろしましょう
- 2 ロープで固定
- 3 足元を固める
- 4 ななめ屋根への立てかけは
はしごがずり落ち危険！



はしごの表記を確認



使いやすい 除雪道具を！

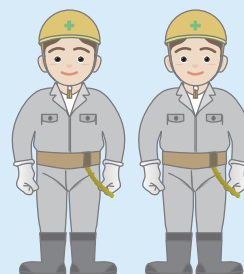


- 軽くて雪が付きにくいアルミ製スコップやスノードンプを使いましょう。
- 雪が付きにくくなるスプレーもお勧め。

の雪下ろし作業 8つのポイント!



2人以上で作業!



- 雪下ろしは、事故に備えて2人以上で作業しましょう。
- やむを得ず1人で作業する場合は、家族と隣近所に声をかけましょう。
- 携帯電話も持ちましょう。

無理な作業はやめましょう!



- 雪下ろしは重労働です。体調の悪いときは無理は止めましょう。
- 上る前に準備運動を忘れずにしましょう。
- 十分に休憩をとりながら、何回かに分けておろしましょう。
- 危ないときはスコップ、スノーダンプを離して身を守りましょう。



足場はいつも注意!

- 落雪に巻き込まれないように、上から雪下ろしをしましょう。
- 足場は慎重に作りましょう。
- 軒先は危険です。雪止めより下には足場を作らないようにしましょう。
- 厚さ 20cm 程度の雪を残した方がすべりにくい。
- 軒先の雪は最後に落としましょう。
- 軒下の人や電線にも注意しましょう。
- 窓からのつらら落としは十分長い棒で小まめにやりましょう。



恐ろしい屋根雪

《屋根雪の衝撃力》

屋根から硬い雪が落ちると大きな衝撃力 (0.3 ~ 5トン/㎡) が生じ、人に当たれば大けがをします。

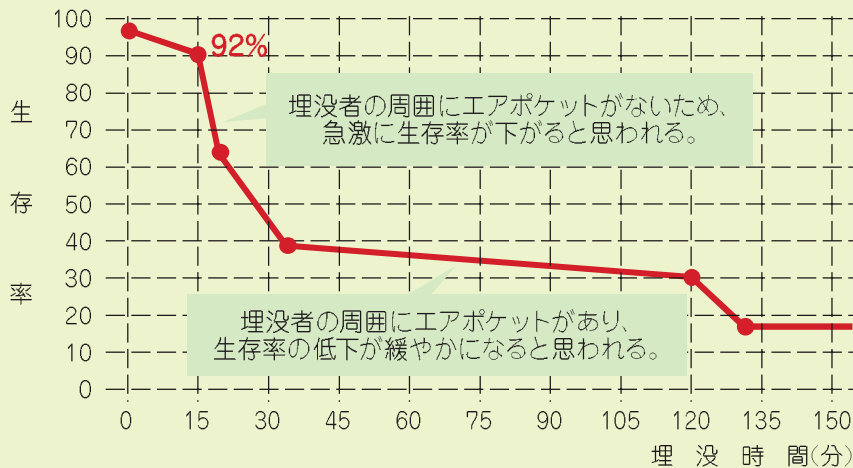
○衝撃力が持つ破壊効果の目安 (白亜書房：雪氷防災参照)

衝撃力(トン/㎡)	破壊力の目安
0.1	窓を破壊
0.5	ドアを吹き倒す
3	家の木組を破壊

《もし雪に埋もれてしまったらこんなことに》

大人でも、わずか30cmの雪に全身が埋まってしまうと体を持ち上げられなくなります。口が完全にふさがれた場合、15分を過ぎると生存率は急速に低下します。

○雪崩埋没時間と生存率 / 422人の雪崩遭難者の埋没時間



《屋根から落ちたら大変》

高さ10mの屋根から落ちた場合の衝突速度は時速35kmに達し、地面がむき出しの舗装面であれば自動車の正面衝突と同程度の大けがを負います。

Case 2

こんな事故がおきています

《雪下ろし中にはしごから転落》

屋根に立てかけたはしごに登るさいに、はしごがずり落ちて転落し骨折。

《屋根から雪と一緒に転落》

一人で屋根の雪下ろしをしていた所、雪と一緒に落下し大量の雪に埋もれ窒息。

《突然の屋根からの落雪、落水》

暖房機の屋外排気口の雪を取り除いている最中に、屋根から雪が落ちてきて打撲。

《水路に転落》

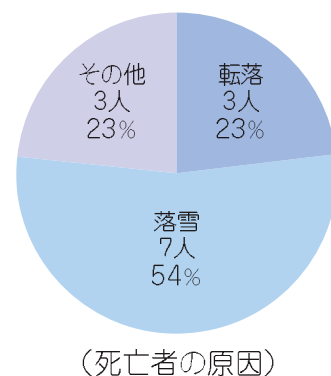
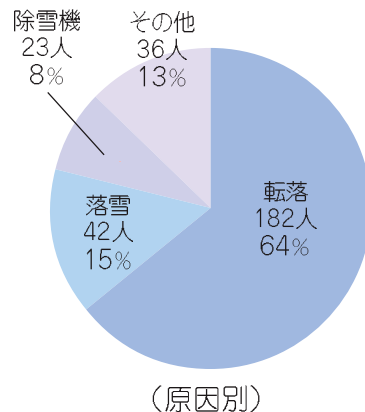
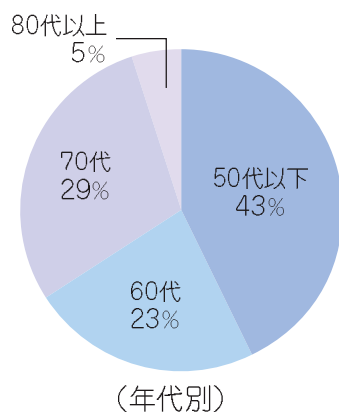
屋根から下ろした雪を水路に排雪していたが、あやまって水路に転落。



私たちの生活を脅かす豪雪

2005年12月から2006年3月までの冬期は、過去に例のない豪雪被害が発生し、気象庁は「平成18年豪雪」と命名し、山形県でも多くの被害が発生しました。

- 死傷者は283名、うち重傷者（160名）は、全国ワースト1位
- 60歳以上の年齢層が5割以上、屋根からの転落事故が6割以上
- 亡くなられた方の5割以上が屋根からの落雪が原因





雪下ろし・落雪事故防止 注意喚起情報を発信します！

山形県では、屋根からの落雪や雪下ろし中の転落事故が発生しやすい状態になったことをお知らせする

「雪下ろし・落雪事故防止注意喚起情報」を発信します。

《注意喚起情報を発信する条件》

12月から3月までの降雪期間、最高気温や積雪などの気象データをもとに状況を判断し、発信します。

《情報の入手先》

ホームページをはじめ、県内報道機関の協力を得ながら広く発信していきます。

「こちら防災やまがた！」

<http://www.pref.yamagata.jp/bosai/index.html>

「山形県雪情報システム」※降雪量予測情報を提供しています。

<http://www.pref.yamagata.jp/snow/>

**万が一事故が発生したら
119番通報してください！**